

7月30日(水)～8月4日(月)

No Water, No Life

決まった形も色もない水…高温多湿の風土で生きる日本人にとって、水に対する感謝・畏敬は私たち日本人の気質となり、淡やかな感受性を育んできました。定まることを知らず、流れにまかせること、一期一会の表情のはかなさを受する国民性が長きにわたり、「水」を表現の対象としてきました。千変万化する表情に表現の世界ではチャレンジが続いてきました。そのような水の表現をご覧いただく第1部と、水が営みに直結している生き物の表現の2部制での展覧会です。水…何気なくも、なくてはならないモノに気づきがありますよう、ご高覧いただけましたら幸いです。

水環琴の演奏と出品作家有志によるギャラリートーク ■8月2日(土)午後3時から

〈出品予定作家〉

【1部】青木 成実 岩谷 晃太 太田 魁 狩俣 公介
北 浩二 坂本トクロウ 中島 健太 野地 美樹子
【2部】伊藤 正人 井上 裕起 岩田 壮平 大森 暁生
金丸 悠晃 下山 直紀 田中 武 藤原 裕之
松枝 悠希 松崎 和実 松田 重仁 吉水 快閑



(敬称略・50音順) 中島 健太「匿名の地平線-ver.monochrome-」(P80)

8月6日(水)～11日(月・祝)

かたち

昭和100年記念 言葉と象で振り返る昭和展

2025年は昭和100年にあたります。昭和が生み出した、または青春を過ごされた思い出の言葉を、現代美術界を代表する書家に、そして昭和時代を象徴する心象、事象の造形を巨匠から新鋭に至る多彩な立体造形作家によって作品化していただきました。展観を通じて昭和という時代の価値観や歴史の流れを感じていただけたら幸いです。

〈出品作家〉

【書】

池田 桂鳳 井茂 圭洞 石飛 博光
黒田 賢一 下谷 洋子 高木 厚人
日比野 博風

【立体造形】

相原 健作 浅野井 春奈 足立 篤史 池川 直
黒川 見彦 小島 久典 嵯峨 卓 杉浦 誠
鈴木 篤 能島 征二 蛭田 二郎 深井 隆
藤本 明洋 ますだまや 益田 芳樹 丸山 智巳
三田村 有純 宮田 亮平 吉野 毅 吉水 快閑
(敬称略・50音順)

8月13日(水)～18日(月)

志水 堅二 展 日本美術×ブリドリ

志水先生の画業は日本画と洋画の融合の模索から始まり、枯れた花や古びた道具をモチーフに時の流れを表現するようになりました。錆びた鳥の玩具から発案されたオリジナルキャラクター「ブリドリ」は、キャラクター文化のアイコンでもあります。ブリドリを描き始めて16年、古典と現代、過去と現在の融合した美術表現を探索し続ける志水先生。今展では尾形光琳、酒井抱一、葛飾北斎など江戸美術の先人たちの作品や意匠をとり入れた作品を展覧いたします。



「舞利鳥散歩図」(F10)

ふじ わら ひろ ゆき

藤原 裕之 展 ～水中への誘い～

魚に魅了されて40年、藤原先生は今なお水族館や海や川など、魚に出会う時間を大切にされています。水面下の魚たちに繰り広げられているドラマなどを想像しながら、水中の景色と心象を重ね合わせ、生命の鼓動を日本画で表現されています。この機会にぜひともご覧ください。



「赤い魚」(8F)

8月21日(木)～25日(月) ※8月20日(水)は全館休業日

コシノヒロコ 展 -美の探求そして継承へ-

ファッションデザイナーという枠を超え、生涯を通じてアート制作にも情熱を注がれてきたコシノヒロコ先生。その芸術性は国内外で高く評価されています。幼少期に親た歌舞伎や文楽などの日本伝統芸能は、色彩感覚に大きな影響を与え、先生の作品世界の礎となりました。「子ども時代に何に触れ、何を体験するかが、感性や美意識の形成にとっていかに大切であるか」と語るコシノヒロコ先生は、その想いを次世代へと伝えることを大切にされています。今展では、彩り豊かな作品群に加え、独自の技法による墨絵などを一堂に展覧いたします。ぜひこの機会にご覧ください。

ギャラリートーク ■8月23日(土)午後3時から

8月27日(水)～9月1日(月)

わか お まこと

-幽雅- 若尾 誠 作陶展

若尾先生は、岐阜県多治見市で陶土による青瓷の創作に懸命に挑まれています。その青瓷の中でも、「粉青瓷(ふんせいじ)」と呼ばれる、素地が褐色の陶土に釉薬を厚くかけた、不透明な薄い青色のものが先生の最も得意とするところです。緩やかにうねりを帯びたボディに、美しく青い釉薬がかかり、貫入の景色と相まって、得もいわれぬ魅力を放っています。ぜひご高覧ください。

粉青瓷茶碗 銘「静雅」
(13.5×13.2×高さ11.6cm)

あき やま たかし

秋山 隆 木彫展

1975年広島県生まれ、2000年広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了。秋山先生の彫られる動物たちはディテールに拘りながらも、躍動感に満ちています。近年「自然と人工」をテーマに制作されており、有機的な曲線と人工的な直線のコントラストが今展の見どころです。

「月」
(22×52×高さ16cm)

8月6日(水) 18日(月)

※8月12日(火)は開催いたします。

かわ きた

川北 ゆう 展 Detail of the Day



川北先生は、絵具やインクや水を用い、感覚や自然現象のなりゆきにまかせて揺れ動いた線の痕跡を画面に定着させた作品を展開されています。時の流れの機微が可視化されるかのように細かな動きのある画面は、強く優しく、ユーモラスで、鑑賞者の心に深く沈降します。画面に現れる揺らぐ線と色の重なりは、いつの間にか忘れてしまう感情や記憶が蘇り、時間を重ねて生きることを慈しむ気持ちをも思い出させてくれます。この機会にご高覧ください。

「2025.05.06」(53.0×33.3cm)

8月21日(木) 9月1日(月)

※8月20日(水)は全館休業日 ※8月26日(火)は開催いたします。

とみ た な つみ

富田 菜摘 展 ReBirth



「角造」(65×165×高さ108cm)

今展では、サイやキリンなど、見上げるほど迫力のある大型の動物たちから、手のりサイズの亀など、廃材から生み出される様々な生きものたちの新作を一堂に発表いたします。富田先生が手掛け“ReBirth”した生きものたちのあたたかな生命感が空間いっぱい広がる、賑やかでカラフルな富田ワールドを、どうぞこの機会にご高覧ください。

高島屋大阪店美術画廊・展覧会のご案内はホームページ、Instagramからもご覧いただけます。



ホームページ



Instagram

Instagramでは旬なアートの情報や展覧会の最新情報を随時更新中！
アート好きの方はフォローお願いいたします！
※PC・スマートフォンからご覧いただけます。